

オハイオ州・フィンドレー大学 奨学生レポート 3月

だんだんと日が長くなってきた3月。第2週の日曜日、3月11日から、またサマータイム(時計を1時間早めること)も始まりました。今月もいろいろな事に挑戦しましたが、1番内容の濃かったボランティアツアーについて書いていこうと思います。

Habitat For Humanity Alternative Spring Break Trip

3月3日~3月11日は大学の春休みでした。私はHabitat For Humanity(ハビタットフォーヒューマニティー、以下 HFH)という家を建てるボランティアサークルに所属しており、春休みを利用してのボランティアツアーに参加しました。

このツアーは毎年行われており、今年はルイジアナ州のMandevilleという地を訪れました。30人を乗せた4台のバンで、片道15時間のドライブ。遠いところでも車で行くロードトリップはとてもアメリカらしい旅の仕方だと思います。フィンドレーはアメリカの中でも非常に北の方に位置しておりますが、訪れたルイジアナ州は南に位置しており、同じアメリカとはいえ、町の雰囲気、住む人々、話す言葉(同じ英語ですが、アクセント・方言など)、気候が大きく異なります。今の時期、フィンドレーは0℃付近を上下するような気温ですが、ルイジアナ州は昼間に25℃程まで上昇するほどの暑さでした。これは、春休みを利用して南に行く、大きな理由の一つで、北の方では雪が降ったり寒すぎたりして、家を建てるのには不向きだからです。

3月3日の朝6時に出発し、途中アラバマ州にあるキリスト教の教会で一夜を過ごし、日曜日の夕方に到着しました。宿泊は全て教会の宿泊施設でした。というのも、HFHはもともとキリスト教の精神の基で設立された団体だからです。帰り道でも、土曜の夜はケンタッキー州の教会で一晩過ごし、日曜日の朝7時に出発しました。しかし、時差の影響でフィンドレーの時間では8時、またちょうど日曜日から始まったサマータイムの影響があり、前日という朝の6時に出発したことになります。日本では考えられないことですが、合計で2時間のロスを抱え、帰路に着きました。

さて、3月5日の月曜日は世界3大祭の一つであるMardi Gras(マルディグラ)で有名なニューオーリンズを観光しました。ちょうど2週間前にその祭が終わったばかりなので、まだその名残が感じられるような陽気な街でした。

また、Swamp Tour(スワンプツアー)にも参加しました。スワンプとは、“湿地帯”という意味で、沼に生息するアリゲーターなどの野生の動植物を探索するクルーズツアーでした。



スワンプツアー

ルイジアナにはケイジャンと呼ばれるフランス系移民の子孫とその文化のコミュニティがあり、ガンボやジャンバラヤといった伝統的な料理も食べました。



ケイジャン料理の一つ「ガンボ」

3月6日火曜日～3月10日土曜日の午前中までは、家を建てるボランティアを行いました。基本的には、午前8時～午後4時まで、いくつかの家に分かれて作業を行いました。私が最初の3日間担当していた家では、壁の枠組みが既に出ていたので、まず屋根を持ち上げてそれを取り付けるという作業を行いました。作業はほぼ全て手作業です。釘も基本的にひとつひとつ手で打ちつけていきました。



屋根を持ち上げる様子

二日目に、あともう少しで、全ての屋根を持ち上げ終わるところで突風に襲われ、取り付けた屋根のパーツが全てドミノ式に倒れてしまうというアクシデントに見舞われました。一瞬、ものすごく恐怖を感じ、目をつぶってしまいました。目を開けると、上で作業していた私たちのリーダーが屋根の下敷きになっていました。皆で彼を救い出し、幸い、大きな怪我はありませんでした。その後はしばらく他の家の作業を手伝う

ことになりました。

三日目に、また元の家に戻り、屋根を一つ一つ立ち上げ、取り付ける作業をしました。午前中には一つも立ち上がっていなかったパーツが、お昼過ぎには全て立ち上がり、その日の終わりには屋根全体を形作ることが出来ました。この家を担当していたチームメンバー皆で、一緒に困難を克服し、喜びを分かち合い、チームワークの素晴らしさを体感することができました。

このツアーでは、ただ家を建てに行くだけでなく、夜になると「リフレクション」と呼ばれるアクティビティを行います。そこでは、ツアーに参加した動機や、その日に感じたこと、また世界の貧困について考えたり、友達の良いところを言い合ったり、皆でたくさんのお話を共有しあいました。一人一人のしっかりした考え方も驚かされましたが、私はアメリカの学生のリーダーシップの力に感動しました。ツアーの企画から、建設現場での指示出し、リフレクションの企画・進行、全てにおいて学生が行い、グループを楽しませ、まとめ、引っ張っていくリーダー達は、まだ大学の2・3年生とは信じられないほど魅力があります。世界経済をリードしているアメリカのリーダーシップはこのような形で作られていくのだと思い、学ぶところがたくさんありました。

ツアーの終わりには、参加したメンバー全員の一人一人からのメッセージを集めたメッセージブックを頂き、帰ってからも旅の思い出を振り返ることができました。



主に担当した家